

交差点 バスが信号待ち車に追突

◆追突、玉突き事故を防ぐ◆

交差点手前で止まる時は、**車1台分のスペース**を空けて止まる

2015年01月23日 00:26

22日午後5時25分ごろ、名古屋市での**信号交差点**で、47歳の男性運転手が運転する**市営バス**が**信号待ち**をしていた乗用車に**追突**しました。バスには20人の乗客がいて、60歳の男性1人が首に軽いけがをしました。名古屋市交通局によりますと、**バスも信号待ち**をしていましたが、運転手が**運転席の後ろ**にある**モニター**で**業務連絡を確認**しようと**振り返った**ところ**ブレーキが緩んだ**ということです。このモニターは本来、終点で乗客全員を降ろした後に確認するもので、交通局は**再発防止**に努めるとしています。

- ★**雪道がすべるのはあたり前**、「すべること」を意識しましょう
- ★路面状況に応じて、十分な**車間距離**を確保しましょう
- ★**天候・道路情報**を収集し、危険な箇所・状況を判断しましょう

バック時は 降りて確認 乗っても確認

交差点 「**右左確認／よ〜し!**」

- ◆**左折**時は、**死角**を認識し、安全確認
- ◆**右折**時は、**対向車**だけでなく、**横断歩行者**にも注意

転倒多発、冬型労災“滑る”事故に注意

6割が**敷地内**、**企業に損失**も

「**個々人の注意も重要だ!**」

2015年1月23日(金)13時42分

凍結や**積雪**に伴う**冬型の労災**が多発する時期になっている。例年、**足を滑らせて転倒**する事故が多く、大半が**事業所内**で発生。**骨折**など重傷を負う場合もあり、けがをした本人はもちろん、欠員や補償といった負担が会社側にも生じる。山形労働局健康安全課は**融雪剤**をまくなど、**事前の備え**で予防できるとし、事業者に対策を求めている。

米沢市内の事業所に勤める50代女性は昨年2月、**会社の駐車場で転び**、**左手を打撲**した。**車を降りた途端**の出来事。**凍結路面で足を滑らせた**。同市の40代女性は駐車場から**玄関に向かう途中に転倒**。**手首の骨を折る**大けがをした。

冬型の労災でもっとも多いのが**転倒事故**。昨冬は105人が**転倒**で負傷し、全体の**4分の3**を占めた。**転落・墜落**が18人、**交通事故**が10人と続くが、**車のスリップ事故**などいずれも「**滑る**」ことが主な原因。脚立など足場が滑って倒れ、地面に転落するケースもある。

独自の対策を進める事業所もある。ある会社は、年間を通じて**業務中に気付いた「危険」**を**社員が報告**する提案制度を設けている。同社安全衛生管理室は「**危険箇所を把握**できる上、**社員の意識も高まる**」とする。

届いた意見を参考に**会社は改善策**を打つ。融雪機能のある駐車場の整備など大掛かりな改修だけでなく、工夫を重ねている。構内12カ所に融雪剤を入れたバケツを常備。社員がいつでも散布できるようにしている。ぬれて滑りやすくなる屋内の階段や床には人工芝のマットを敷設。路面のくぼみには水たまりができないよう溝を設けている。

労災保険料や**信用への影響**、**欠員**など、**労災は企業にも大きな損失**をもたらす。安全衛生管理室長は「**事故防止に投資するメリットは非常に大きい**」と話す。

山形労働局は安全パトロールなどを通じ、事業所に積極的な対策を促す方針。同局健康安全課は「事業所外の道路など対策ができない場所もある。**滑りにくい靴**を履いたり、**すり足**で歩くなど、**個々人の注意も重要だ**」としている。

午後5時 交差点横断歩道で女性はねられ死亡

(2015年01月22日 12:00)

21日の**午後5時**すぎ、岩手県の国道で**横断歩道**を歩いていた**81歳**の女性が**左から**来た軽ワゴン車にはねられ**死亡**しました。警察は軽ワゴン車を運転していた大工の男性容疑者**64歳**を過失運転傷害の疑いで現行犯逮捕し、その後容疑を過失運転致死に切り替えて詳しい事故の原因を調べています。現場は**交差点**に設けられた**信号機の無い横断歩道**。